

## 地域学校協働本部②

今回は、子どもにやさしいまちをつくるには、子どもが多くいる場所で取り組むのが効果的なので学校が核になる。という話と、そのために有効なのが『地域学校協働本部』という話をしました。

### 地域学校協働本部とは

また新しい言葉が出てきて何のことかと思う方もいるでしょう。言葉は新しいですが、中身はすでに安平町がやっていることです。

- ・放課後子ども教室
- ・土日の子ども向け公民館イベント
- ・運動会など学校行事の地域サポート
- ・登校時に交通安全、見守り
- ・総合的な学習の時間の※学習や安平川学習



総合的な学習の時間で行われる米学習

・地域の子どもの会の活動  
・遊育やあびらぼといったあびら教育プラン

全部あげると紙面が足りなくなるくらい安平町は子どもに関わることを地域社会がなっています。学校が行う教育を『学校教育』、これらのように地域社会が行う教育を『社会教育』と言います。地域学校協働本部とは、この学校教育と社会教育が連携・協働して子どもを育てる仕組みのことを言います。

### 支援から連携協働へ

今までやっているものと何が違うのか、左の紙面にある図で説明します。先ほどあげた活動は、すべて子どもや学校が関わっていますが、それぞれの活動をそれぞれの人や団体がやっているため横の連携があまり取れていませんでした。また、学校側もそれぞれの人や団体と調整するため、そのための業務負担が多かったり担当の先生が転勤すると上手く引き継がれないこともありました。

そこで、個別の活動をつなげて、学校や子どもの活動を『支援・サポート』するとうりあり方を、『連携・協働』する形にしていくのが「地域学校協働本部」です。

まだちょっと分かりにくいのでもっとシンプルに表現すると、バラバラに学校に関わるのではなく、『みんながつながって一緒に子どもを育てよう』ということなんです。



しかし、つながるためにはコーディネート役が必要です。そこで、地域学校協働活動推進員という方が、そのコーディネートをお願いします。誰がやるか、どのようにやるかは、これからです。

### 学校がもたない・・・

「みんながつながって一緒に子どもを育てる」背景には、もう一つ大きな問題が隠されています。それは「先生が児童生徒を教える」という大前提が揺らぐ状況が、全国の学校で見られるからです。今回は学校現場に入ってきた学校の現状をお伝えしたいと思います。